

そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第89号 2014年6月

発行所 〒802-8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人 木村 雄峰
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替 01770-2-40213
URL http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/



【第46回山口県アイリンピック大会】山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。当事業団などが後援助成し5月25日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。2100人が参加し、競技を繰り広げた。

6月4日に役員会を開催

役員人事や決算、事業報告など承認

毎日新聞西部社会事業団の定時評議員会と臨時理事会が2014年6月4日、北九州市のホテルで開かれた。評議員会では、役員人事のほか13年度決算や事業報告などの議案を可決・承認。また臨時理事会では理事長と常務理事の選任について審議し、理事長に岸本卓也・毎日新聞西部本社代表を、常務理事に木村雄峰・西部社会事業団事務局長を選定した。

【第6回きらぴかキャンプ】当事業団がYMCAに助成して実施。13年度は日帰りのデイキャンプを5回、2泊3日のサマーキャンプを1回、1泊2日のスキーキャンプを1回開催。子供たちの声がキャンプ場に響いていた。

【田川児童相談所管内児童福祉施設「フレ!愛!レクリエーション大会」】福岡県田川児童相談所などが9月22日、田川市の県立学体育館で開き、管内の施設の子どもたちや父母や施設職員ら約250人が参加。玉入れや綱引きなどを楽しんだ。

【門司区母子クリスマス会】北九州市母子寡婦福祉会門司支部が12月8日、門司区内の母子家庭の母子61人をレストランに招き、食事を楽しんだ。

◆海外難民救援事業◆

海外難民救援事業は、毎日新聞社会事業団が毎日新聞紙面と連動させ1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート、2013年で35年を迎えた。13年4月、大阪本社の記者とカメラマンがアフリカ・ブルキナファソのスラムで暮らす難民や貧しい住民を取材し、「瞳輝くまで〜ブルキナファソ報告」と題して、貧困に苦しむ人々の現状を紙面で紹介した。

スラムで生活する人たちの窮状を知った読者から多くの浄財が寄せられ、西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会などの国際機関や「シャンティ国際ボランティア会」「ベシヤワール会」などのNGOなど 21団体に総額805万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は15億8443万8344円に達した。

海外難民救援金の配分先は以下の通り
日本ユニセフ協会▽国連UNHCR協会▽日本フアイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)▽国連世界食糧計画WFP協会▽アムダ(AMDA)▽シェア(国際保健協力市民の会)▽ジェン(JEN)▽シャンティ国際ボランティア会▽全国社会福祉協議会▽難民を助ける会(AAR)▽日本国際ボランティアセンター(JVC)▽バーンロムサイம்பースウィンズ・ジャパン(PWJ)▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽ネパール・ヨードを考える会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽シエラレオネフレンズ▽ペシヤワール会▽ロシナンテス
計 21団体 805万円

◆小児がん征圧事業◆

平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した事業。東京、大阪、西部の3事業団に寄せられた募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した。13年度は当事業団に東京在住の方から2000万円という多額の募金寄せられたため、西部管内だけでなく東京、大阪の配分団体にも配分することができた。その結果、東京、大阪と合わせた当年度の配分は全国で30団体、2655万円となり、これにより第1次から第18次までの贈呈総額は2億7910万円となった。

小児がん征圧募金の配分団体と配分額は以下の通り
がんの子供を守る会(含むスマートムンストン)▽そらぷちキッズキャンプ▽白血病研究基金を育てる会▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽パンダハウスを育てる会▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニックラウン協会
近畿小児がん研究会▽京都ファミリーハウス▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティア「にこにこトマト」▽NPOあいち骨髄バンクを支援する会▽NPO法人にこスマ九州▽留米大学病院親の会「木曜会」▽NPO法人こども医療支援わらびの会▽ペンギンの会▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽たんぽぽハウス▽福岡大学病院小児科親の会「みらい」
スマイルデイズ▽福岡ファミリーハウス▽宮崎ファミリーハウス▽ファミリーハウス由布BABYMINE▽こども医療ネットワーク▽がんの子どもを守る会九州北支部▽大分大学医学部付属病院小児科親の会「ブルースター」▽九大小児科医療センター「ゆめりんご」▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会
計30団体 2655万円



3月7日に開かれた募金の贈呈式



【第46回山口県アイリンピック大会】山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。当事業団などが後援助成し5月25日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。2100人が参加し、競技を繰り広げた。

◆障害者福祉事業◆

19件の事業を支援し、新規は2件助成・援助の事業件数としては最も多く、大半が継続事業。今期は新規事業が2件あり計19件となったが、うち名義のみの後援は4件だった。

支援した事業は次の通り
北九州精神障害者福祉会連合会合同バスハイク助成(新規)▽全国脊損者連合会第37回九州ブロック会議助成(新規) ▽「声の点字毎日」発行▽第36回毎日サマースクール▽第34回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第24回北九州市障害者水泳大会▽第38回「わたぼうし音楽祭」▽第13回ごろりんハウス交流キャンプ▽第48回九州地区聾学校体育・文化連盟熊本大会▽第82回全国盲学校弁論大会▽第24回全国ふうせんバレーボール大会▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽第33回「出発を励ます集い」▽第32回北九州市障害者ボウリング大会▽北九州OPEN(国際車いすテニストーナメント2014北九州)

名義後援事業は次の通り
第51回北九州市障害者スポーツ大会▽第31回北九州精神障害者家族会連合会総会 ▽第32回肢体不自由児者の美術展▽第10回オンキョー点字作文コンクール

◆災害被災者救援事業◆

フィリピン台風救援金には2540万円
13年度は、東日本大震災救援金には131件222万315円(前年度205件568万1822円)が寄せられたものの、前年度に比べ募金額で250万円以上の減少となった。一方、毎日新聞社と3事業団が取り組んだ毎日希望奨学金には217件520万8490円(前年度318件619万3065円)が寄せられたが、この募金も前年度に比べ減少した。

このほか、フィリピン台風被災者救援

【第46回山口県アイリンピック大会】山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。当事業団などが後援助成し5月25日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。2100人が参加し、競技を繰り広げた。

【第6回きらぴかキャンプ】当事業団がYMCAに助成して実施。13年度は日帰りのデイキャンプを5回、2泊3日のサマーキャンプを1回、1泊2日のスキーキャンプを1回開催。子供たちの声がキャンプ場に響いていた。

金には、3事業団合計で2150件2540万6108円の募金があり、日本ユニセフ協会、国連UNHCR協会、国連世界食糧計画WFP協会などの国連機関や現地で救援活動をする法人に送金した。また7月に発生した島根・山口豪雨災害では、募金を呼びかけなかったが、読者から被災者救援金として5件3万320円が寄せられ、山口県共同募金会に送金した。

西部社会事業団への募金は以下の機関・団体に配分、贈呈した
東日本大震災被災者救援金/日本赤十字社へ200万円▽毎日希望奨学金/大阪社会事業団へ400万円▽フィリピン台風被災者救援金/国連UNHCR協会へ180万6108円▽島根・山口豪雨被害被災者救援金/山口県共同募金会へ3万0320円

◆第47回山口県アイリンピックに 約2000人が参加◆



車いすパン食い競走に挑戦する参加者たち

児童福祉事業は8件

【田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会】福岡県田川児童相談所などが10月19日と14年2月15日の2回、福岡県飯塚市の麻生塾ボウルで開催。児童福祉施設から10月の中学・高校生の大会には38人、2月の小学生の部には56人が参加してプレーを楽しんだ。

【平成25年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー】筑豊京築地区児童福祉施設長会などが、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に、職場実習を通じて、卒業後の社会人としての自覚を促すために実施。夏休み中に職場体験や工場見学、講演会などで研修、体験報告会などで学んだことなどを報告した。

◆福祉団体助成事業◆

解散により助成団体が1団体減少
今期は、前年度より1団体減の14団体に助成金を贈った。減少の理由は「福岡県交通遺児を支える会北九州総支部」が13年度末に解散したため。いずれも継続事業ではあるが、大半の団体の助成額を前年度より減額した。

助成した福祉団体は以下の通り
あしなが育英会▽福岡、北九州、佐賀、大分各県の「いのちの電話」▽福岡盲ろう者友の会▽北九州ホームレス支援機構▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会▽山口県児童福祉連絡会議▽日タイ両国の社会福祉交流事業

第47回山口県アイリンピック大会が5月24日、山口市の維新百年記念公園で開かれ、県内の児童福祉施設、知的障害者援護施設の利用者ら約2000人が参加した。

山口市の最高気温は28度と6月下旬並みの暑さの中、玉入れやフットサル、ドッジボールなどに汗をかき、ダンスのレクリエーションを楽しんでいた。

スタンドがひとときわ盛り上がったのは、大玉転がし。一生懸命に押す姿に大きな声援が送られていた。車いすパン食い競走に参加した光市の女性(41)は「おもしろかったです。毎年楽しみにしていますが、今年は1着だったので爽快でした」と笑みを浮かべながら話していた。